

## 今シーズンのA群ロタウイルスの解析状況について

### <A群ロタウイルスの調査について>

A群ロタウイルス（Rota virus group A 以下RVA）は、ほとんどの人が5歳までに1度は感染します。ワクチンの任意接種が始まったことでウイルスの流行株にどのような影響を与えるのか、亜型の解析を含めたウイルスの詳細な調査が求められています。当センターでは2008年からRVAの亜型の解析を継続して実施し、その流行状況を調査しています。ワクチン接種開始後の2013/14シーズン（2013年9月～2014年8月までの1年を「シーズン」としてしています）には患者数は激減しましたが、2014/15シーズンにはG1P[8]を主とする流行が見られ昨年の保健研究センターだより5月号でお知らせしました。

今シーズン（2015/16）は、一部地域で年末から流行がみられ、12月、1月、3月にはRVAによる集団感染性胃腸炎も発生しました。今シーズン（2015年9月～2016年4月）のRVA解析状況についてお知らせします。

### <調査結果>

感染症発生動向調査でRVAが陽性であった検体117例について亜型解析を行いました。検出したRVAの遺伝子型は、G2P[4]の検出が113例（96.6%）、G9P[8]が2例（1.7%）、G3P[8]が1例（0.9%）、G1P[8]が1例（0.9%）でした。これまでの主流株であるG1P[8]、G3P[8]は合計2例と非常に少なく、G2P[4]が2008年からの調査以降初めて主流株となり、地域差はありませんでした。

患者年齢は0歳～20歳で2歳代が29例（24.8%）と最も多く、5歳以上の患者が32例（27.4%）いました。また、子どもから親兄弟に感染する家族内感染例もありました。ワクチン接種歴のある患者が117例中32例（1価ワクチン30例、5価ワクチン2例）含まれており、ワクチン接種歴のある患者からはすべてG2P[4]を検出しました。ノロウイルス、コクサッキーウイルス、サポウイルス、アデノウイルスに重複感染している例が8例ありました。

RVAによる集団発生事例3例ではいずれもG2P[4]を検出しており、保育所、小学校で発生していました。

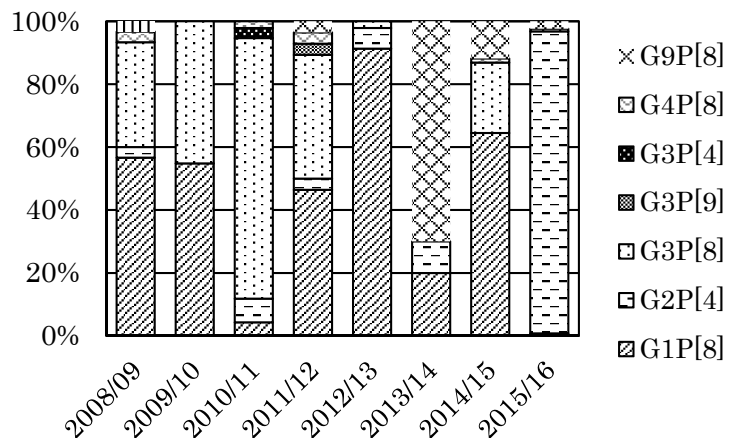
今シーズンのG2P[4]の流行は、通常罹患する0～5歳児以外にも、すでに免疫を獲得している年長の人やワクチンを接種した人にも広がっています。これはG2P[4]のウイルスの内部タンパク質が、G1P[8]、G3P[8]やワクチン株と異なっているため、交叉防御能が十分に機能しなかったと考えられます。

今回、県内で初めてRVAを成人から検出しましたが、すでに千葉県、茨城県、アメリカでもG2P[4]を原因とする成人の集団感染例が報告されています。また、ワクチンの影響かは明らかになっていませんがブラジル、ベルギーなどでワクチン導入後にG2P[4]が優勢になったという報告もあり、ワクチンとの関連調査が必要です。

今後も継続したウイルス動向のデータを蓄積し、県内の流行の変化・変動を詳細に解析・把握に努めていきたいと考えています。奈良県感染症発生動向調査にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

<ウイルス・疫学情報担当>

シーズン別遺伝子型割合



シーズン別患者年齢割合

